

# 普及センター もりおか 3月

インターネットでオールカラーの記事が読めるよ！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第189号 平成31年2月25日発行  
盛岡農業改良普及センター  
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎  
TEL 019-629-6726 FAX 019-629-6739

平成30年度技術実証の結果を御紹介します～野菜・果樹・畜産～

野菜

## トマト若苗定植による抑制作型に取り組んでみました



### 1 実証内容

例年、単価が高くなる9月以降は、落花や裂果等の発生によりトマトの収穫量が減少する時期です。また、7～8月の収穫ピーク時に管理作業が後手になり、その後の着果数が少なくなるケースも見られます。

そこで、“収穫ピークの分散”、“省力的な管理”、“9月以降の出荷量の確保”を目的に、6月中旬にトマトのセル苗を密植して、生育や収量を確認しました。

### 2 栽培管理

- 6/15：定植（78穴セルから直接定植）  
※株間 35 cm（栽植密度 3,120 株/10a）  
※品種：桃太郎ワンダー
- 6/28：ひも誘引
- 8/13：つる下げ誘引①
- 8/26：つる下げ誘引②・8段花房上摘心



本葉5葉の苗を35cm株間で密植

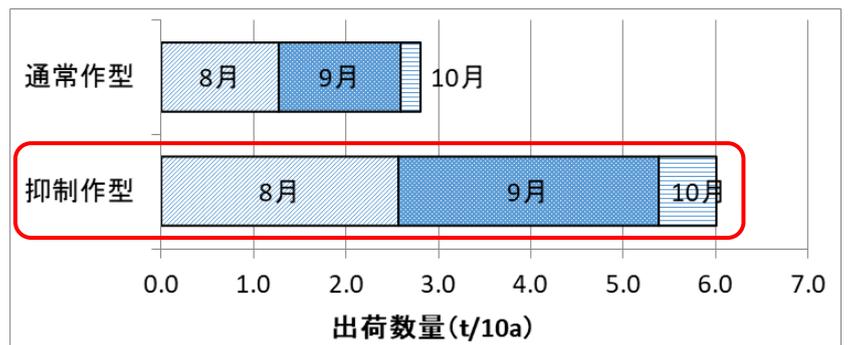
### 3 取り組みの結果

抑制作型の出荷が始まった8/12以降の出荷量や規格を普通作型（4/下定植）と比較しました。

- 抑制作型は8/12から収穫開始し6t/10aの単収となりました。
- 抑制作型は裂果が少なく、A品率は抑制作型で39%、通常作型は29%でした。
- また果実肥大も良く、M規格以上割合は抑制作型で62%、通常作型は52%でした。

### 【実証農家の声】

- 密植にしたので、果実の日焼けや裂果がほとんど無かった。
- 若苗で定植したので、カリ欠乏による葉先枯れが発生しなかった。
- 来年度は2棟に増やして取り組みを行いたい。



◎H31年度はミニトマトでも実証を行います。

8/12以降の出荷数量の比較

## 果樹

# りんご着色系ふじの地域適応性把握

### 1 内容

「ふじ」は、多くの着色系統が現地に導入されています。しかし、地域によっては、その特性が十分に発揮しない場合もあります。そのため、改植推進や産地ブランド化に役立てるため、地域に導入されている系統の特性把握に取り組んでいます。

### 2 調査内容 (H29~30・紫波町)

収穫期に4系統(極ふじ、コスモふじ、みしまふじ(高野系)、宮美ふじ)の果形や果実品質(着色状況等)を調査しました。

### 3 調査結果

果形についてはみしまふじ(高野系)と宮美ふじの正常果率が高くなりました(図)。

また、着色については、コスモふじ宮美ふじが良好でした(表)。

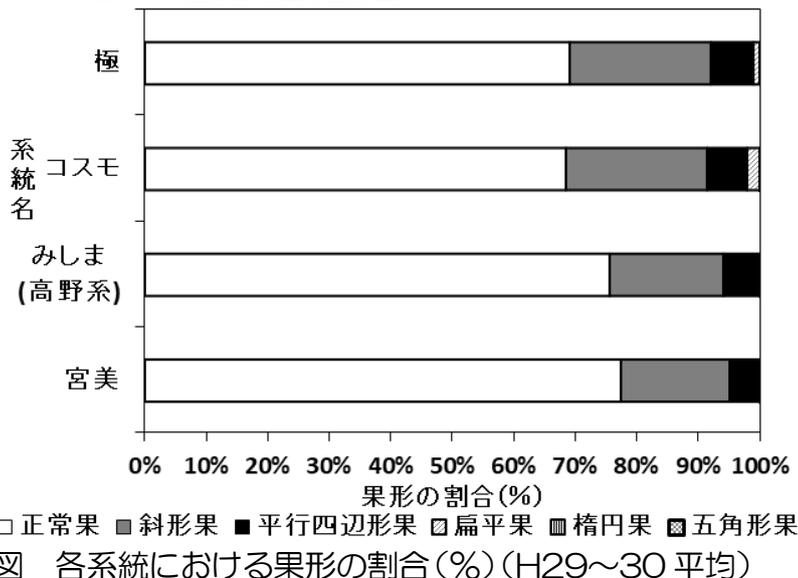


表 各系統における着色状況 (H29~30 平均)

系統名	着色指数 (CC値)	濃色割合 (%)	着色割合 (%)	均一性 (指数)
極	5.0	47	86	4.4
コスモ	5.8	56	97	4.5
みしま(高野系)	4.6	61	96	4.9
宮美	5.2	59	98	4.8

※着色指数：値が高いほど赤色が濃い

濃色割合：最も濃い色の割合

着色割合：CC(カラーチャート)1以上の着色割合

均一性：指数が高いほど着色むらが少ない

## 畜産

# 飼料用とうもろこしの湿害対策実証

### 1 実証内容

飼料用とうもろこしは耐湿性が低く、排水が不良なほ場においては、物理的な排水対策が有効です。一方、ほ場条件によっては、石礫が多く心土破砕等の施工が困難な場合や排水先の確保が困難な場合も想定されます。

また、湿害発生リスクの高まる6月中旬から7月下旬に窒素を追肥することで被害をある程度軽減できることが知られていますが、同時期の追肥は機械等による作業が困難であることから現実的ではありません。そこで、窒素を被覆し緩やかに肥効を発揮する肥効調節型肥料(LP122(100日タイプ)、LP555(70日タイプ))を基肥として使用した湿害対策の実証を行いました。なお、試験区はLP122区、LP555区とし、慣行区にはデントコーン専用肥料を使用し、各区とも県農作物施肥管理指針に定められた窒素量を基準に施肥しました。

### 2 実証結果

慣行区及びLP122区、LP555区の成績等は下表のとおりです。

実証区名	含量(%) (施肥量中(kg/10a))			収量(現物kg/10a) (慣行区比%)	肥料費(円/t(現物)) (慣行区比%)
	窒素	リン酸	加里		
LP122区	10%(15)	20%(30)	20%(30)	4,070(78)	4,357(200)
LP555区	15%(15)	15%(15)	15%(15)	6,397(105)	2,170(100)
慣行区	10%(15)	12%(18)	10%(15)	6,097(100)	2,179(100)

LP555区の収量、肥料費は慣行区と同等となりました。しかし、ほ場条件等により、効果が現れないことがあることから、肥効調節型肥料の使用についてご不明な点は普及センターにお問い合わせください。